

Reduction of intrapancreatic neural density in cancer tissue predicts poorer outcome in pancreatic ductal carcinoma

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2020-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岩崎, 寿光 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002493

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2247 号

Reduction of intrapancreatic neural density in cancer tissue predicts poorer outcome in pancreatic ductal carcinoma

浸潤性膵管癌における膵内腫瘍組織の神経密度減少は予後不良因子である

岩崎 寿光 (いわさき としみつ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、浸潤性膵管癌組織内の神経の変化を定量的に評価することによって、これを客観的に特徴づけている。さらに、神経の密度が予後と関連することを始めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。

過去に、浸潤性膵管癌内における神経肥大の報告は複数あるが、膵組織中のどの神経が肥大し、どの神経が消失しているかを明確に記述した報告はなかった。本論文では、正常膵・慢性膵炎と浸潤性膵管癌とを比較することによって、浸潤性膵管癌組織に特徴的とされる退形成性変化の過程で生じた変化を定量的に評価している。さらに、浸潤性膵管癌症例間で、神経密度・神経数・神経浸潤の程度には差異があり、これらが全生存期間に関連していること、特に神経密度の減少は多変量解析において予後不良予測因子であったことを報告している。

本論文で取り上げた神経評価因子の内、神経数と神経浸潤の程度について、ヘマトキシリン・エオジン染色スライド上の観察におけるカット・オフ値を選定し、別のコホートを用いた validation においても予後との関連を確認している。これらは臨床病理診断の場においても用いることが出来て、新たな予後判定因子となりうる可能性があるとしている。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。